

報道関係者各位

2019年8月6日

熊谷市の建築現場仮囲いに「避難場所看板」を設置 近隣住民の皆さまが安心して暮らせる街づくりに貢献

大東建託株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長:小林克満)は、7月19日から9月22日までの約2か月間、埼玉県熊谷市内の建築現場仮囲い※1に「避難場所看板」を設置します。

近年頻発している自然災害に対し、災害時の被害を最小限にするためには、避難場所などの情報を把握しておくことが大切です。当社は、本取り組みを通じ、地域全体の防災意識向上を図るとともに、安心して暮らせる街づくりに貢献していきます。

※1 仮囲いとは・・・工事現場内外の安全確保のため、一定期間(3か月～1年程度)現場周囲に設ける囲いのこと

■建築現場に「避難場所看板」を設置し、地域防災に貢献

当社では、2014年より、建築現場を活用して地域コミュニティの活性化に貢献することを目的に、全国で継続的に「仮囲いプロジェクト」を展開しています。

今回の熊谷市の建築現場では、近年頻発している自然災害に対し、近隣住民様に災害時の避難場所をお知らせできるよう、熊谷市役所危機管理課にご協力いただき、「避難場所看板」を建築現場仮囲いにラッピングしました。今後は、市内の他建築現場での展開も検討しています。



仮囲いラッピングした建築現場

■建築現場の概要



場所 : 埼玉県熊谷市石原正天
 アクセス : 秩父鉄道「石原駅」から徒歩約15分
 掲出期間: 7月19日～9月22日(予定)
 物件規模: 1棟6戸(木造2×4、2階建て)
 完成日 : 2019年9月30日(予定)

■2014年より全国各地で「仮囲いプロジェクト」を展開

当社は、2014年から継続的に、建築現場を通じた社会貢献活動として全国で「仮囲いプロジェクト」を実施しています。これは、安全確保という重要な役割を果たしながらも無機質になりがちな建築現場の仮囲いを活用し、近隣の幼稚園や保育園に通う子どもたちの絵や、地域の交通安全スローガンなどを仮囲いに展示するなどして、地域の皆さまとのコミュニケーションの活性化を図っていくことを目的としています。立ち止まって絵を見る方も多く、道行く方はもちろん、工事現場で働く方からも好評で、「夜間のライトアップは防犯にもつながる」「工事現場が明るくなった」といった声が寄せられています。



●絵画ギャラリー(2016年3月・和歌山県和歌山市)

協力:宮前幼稚園

子どもたちの絵を飾るだけでなく、暗い夜道を安心して通行できるよう、夜間のライトアップを実施。



●交通安全(2017年9月・東京都大田区)

協力:大森・蒲田警察署

地域の警察署と協力し、交通安全スローガンや警察署のポスターを設置。



●行田市の観光PR

(2017年12月・埼玉県行田市)

日本遺産に選ばれた「和装文化の足元を支え続ける足袋の町・行田市」をPR。



●プロジェクション・ライティング

(2018年1月・新潟県新潟市)

16時~21時の間、工事現場のメッシュシートに雪の結晶星の模様を投影するプロジェクション・ライティングを実施。



●「仮囲いギャラリー× Instagram」

(2018年3月・茨城県古河市、東京都品川区、墨田区、八王子市)

建築現場に流行のInstagramに投稿していただけるようなデザイン仮囲いを設置。



●宇都宮市の観光PR

(2018年7月・栃木県宇都宮市)

日本遺産に選ばれた「地下迷宮の秘密を探る旅 大谷文化が息づくまち宇都宮」をPR。

< 本件に関するお問い合わせ >

大東建託株式会社 広報部 広報CSR課 TEL:03-6718-9174